

# 東京スカイツリー®。 日本一高所で使われた簡易トイレ。

## 地域の期待に応え国際観光都市の実現を目指す

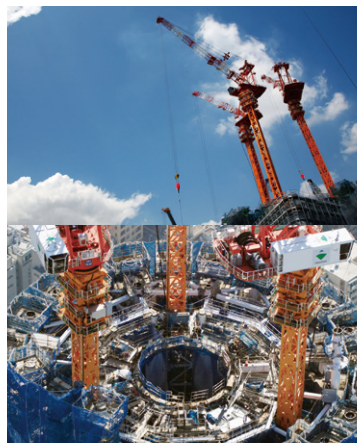
2012年5月22日に開業予定の東京スカイツリー(事業主体:東武鉄道・東武  
タワースカイツリー、設計・監理:日建設計、施工:大林組)は、タワーの最高  
地点が634メートルと、自立式電波塔としては世界一の高さとなります。  
隅田川を背景に地域との調和を深め、タワーを中核とした大規模複合開発は  
東京のあらたな観光名所として、世界中から注目されています。

東京スカイツリーから発信される日本の伝統文化と最新技術もまた、注目  
される要素の一つと言えます。特に空高くそびえる建設中のタワーで稼動する  
クレーンは人々の関心が必然的に集まりました。2009年3月以降、順次  
タワークレーンが上がり、4基のクレーンが稼動していました。見上げる建設中の  
東京スカイツリーのトレードマークのように約2年間日本一の高所で活躍し  
ていました。

## 極限の建設現場だからこそ

タワークレーンのオペレーターの方は、現場での作業が始まる前にクレーン  
操縦室に向かい作業終了まで1日中操縦室に  
入ったままです。休憩、食事、トイレもまた  
操縦室で完結させなければなりません。

「通常、クレーンのオペレーターは体作り  
ができていますので、作業時はトイレを極力  
使用しないように心掛けています。しかし、  
このような特殊(高所)な現場では非常用に  
トイレを設置しないと、緊急対応が出来  
ません。メンテナンスが簡易で、設置も場所  
をとらないラップポンは比較的導入しやすい  
仮設トイレです。」(辺見工事長)



提供:大林組

## Interview



株式会社大林組  
新タワー建設工事事務所  
工事長(機電担当)  
辺見 厚志 様